

街エネ推進協議会 DB 部会 座談会 開催報告

日時	2018年11月20日(火)、15:00～17:30	
場所	中央区立環境情報センター 研修室	
会合	第6回座談会	
主催	街づくりエネルギーマネジメント推進協議会 エネルギーサービス DB 部会	
テーマ	「持続可能な超スマート社会を実現するエネルギーサービス DB の構築戦略」	
議題	1) 関連話題の提供と意見交換	
	① 「持続可能な都市交通戦略～交通まちづくり、SDGs、価値評価、関係性のリ・デザイン～」(土井氏)	
	② 「ブロックチェーンを活用したローカルVPP～再生可能エネルギーの経済的自立～」(中村氏)	
座長	早稲田大学	高口 洋人氏
司会	エコまちフォーラム	中丸 正 氏
幹事	日立製作所	古谷 雅年氏
補佐	日立製作所	岡田 直子氏
討論者	大阪大学	土井 健司氏
	スマートエナジー研究所	中村 良道氏
	日建設計総合研究所	河野 匡志氏
	ゼンリンデータコム	池本 智 氏
同席者	早稲田大学高口研究室	足立さん (学生)

1. 概要

2018年11月20日(火)、中央区立環境情報センターにて、街づくりエネルギーマネジメント推進協議会 エネルギーサービス DB 部会(部会長:早稲田大学/高口洋人教授)主催により、「持続可能な超スマート社会を実現するエネルギーサービス DB の構築戦略」と題した第6回座談会が開催された。第1～5回までの座談会では、テーマに関連して累計13件の話題提供をいただいた。第6回では交通まちづくりやブロックチェーン技術活用の観点から新たに2件の話題提供をいただき、新たな切り口で議論を展開する。

2. 話題提供と意見交換

座談会主査の早大/高口先生より、趣旨説明があった。ステークホルダーが意思決定をするにはエネルギーコストの削減だけでは不十分である。生活の質の改善や生産性向上、SDGsへのインパクトなどを組み合わせることが必要不可欠である。街には多種多様な情報があふれ、データベースも構築され始めているが、データを横断的に使おうとすると、プライバシーや守秘義務など様々な問題に直面する。法制度や社会制度の変化も視野に入れな

がら、具体的にどんなサービスが実現され、新たな社会像が構築できるのかを議論していく。

大阪大学の土井先生からは、「持続可能な都市交通戦略～交通まちづくり、SDGs、価値評価、関係性のリ・デザイン～」と題して、特に、地方都市において交通事業者、行政、住民、利用者の関係性をどう変えて、持続可能な公共交通を維持・発展していくべきかについて説明があった。今、世界の ITS 会議では”MaaS(Mobility as a Service)”が席卷している。フィンランドのMaaSでは、公共交通とシェアリングによって「マイカーをゼロ」にする目標を掲げている。日本の地方都市においても、住民が計画段階から運用段階に至るまで関わり、多様な交通手段をインタモーダルにつなぐ超スマートなモビリティを維持していくことが肝要である。



ゼンリンデータコムの中村氏からは、上記の話題提供に関連して、GPS データを活用して地図上でリアルタイムに人の移動量を統計的に把握する「混雑度マップ」の紹介があった。

スマートエナジー研究所の中村氏からは、「ブロックチェーンを活用したローカル VPP～再生可能エネルギーの経済的自立～」と題して、福岡の新築賃貸マンションで実施するローカル VPP(バーチャルパワープラント)の実証について説明があった。このマンションでは、電力会社から一括受電するとともに、屋上には太陽光、各戸には小型の蓄電池を配備し、マンション内マイクログリッドを構成する。平常時はローカル VPP としてマンション全体の電力需要を平準化するとともに、系統停電時は各戸の蓄電池によって停電しないリビングを実現する。マンション内の電力のやりとりはブロックチェーンで記録し、ETP(電力移動証明)とする。